テレパシー

水野葉舟

青空文庫

怪談の中でも、人間が死ぬ断末魔の刹那に遠く離れて居る、親しい者へ、知らせるというのは、決して怪談というべき類では無かろうと思う、これは立派な精神的作用で、矢張一種のテレパシーなのだ。

私の知ってる女で、好んで心理学の書を読んでいた人があったが、その女の談に、或時、その女が自分の親友と二人遠く離れて居て、二人の相互の感情が通うものか、如何か、一つ実験をしようと、前以て約束をして、それから後、お互に憶出した時、その月日と時刻とを記しておいて、後になって、それを互に合してみると、その中の十中の六までは、その相互の感情が、ひったり一致をしていたそうだ。元来女の性質は単純な物事に信じ易いものだから、尚更こういうことが、著るしく現われるかもしれぬ。それが為めか、かの市巫といったものは如何も昔から女の方が多いようだ。

また曾て、或老僧の幽霊観を聞いた事があったが、それは、人がもし死ぬという瞬間には、その人の過去に経て来た、一生涯の光景が、必ずその人自身の眼先に見えるものだと、いっていたが、丁度これと同様な話を、その後にまたある知己からも聞いた事があった。それは、その人が　或る闇夜に道を歩いていて、突然知らずに、高い土手の上から辷り落ちたそうだが、その際土手を辷り落ちて行く瞬間に、矢張その人自身の過去の光景が、眼に映ったといっていた。そして尚老僧のいうのには、その場合その人自身の頭脳に、何か一つ残るものがあって、

それは各人に依って異るが、もしも愛着心の強い人ならば、それが残ろうし、恨悔しい念があったらば、怨霊という様なものが残るので、それにその人自身の全勢力が集注して、或場合に於て、必ずこの世に現れるものだといっていたが、この事は或程度に於て、信じられそうな説だと思う。元来僧侶というものは、こんな事を平気で、談すので、或僧の談によると、所謂寺の亡者が知らせに来る場合には、必ずその人の生前の性質が現れる、例えば気の荒い人だったらば、鉦の叩き様が頗る荒っぽいそうだし、温和な人ならば、至極静かに知らせるといっていたが、それは兎に角何れの僧侶に訊ねても、この寺へ知らせに来るというのは、真実のものらしい。要するに、是等のことは、凡てまだその人が活きている時の、精神的感応であるから、決して怪談ではなかろうというのである。

　議論は兎に角として、私もこの方向には、頗る興味を持っている。否近頃では、それ以上で、実は熱心に一つ研究をしてみようかと考えているくらいだ。しかし幸か不幸か、まだ自分には、まるで実見がないが、色々他人から聴いたのを、少し談してみよう。

　東北地方は一躰は関西地方や四国九州の辺と異って、何だか薄暗い、如何にも幽霊が出そうな地方だが、私がこの夏行った、陸中国遠野郷の近辺も、一般に昔からの伝説などが多くあるところだ。此処で聞いた談に、或時その近在のさる豪家の娘が病気で、最早危篤という時に、その家の若者が、其処から十町許もある遠野町へ薬を買いに行った、時はもう夜の九時頃のことで、月が朧の晩であった。若者も大急ぎに町へ出て、その薬を求めて、主家の方へ戻っ

て来る途中、其処は山の裾を廻る道なので右の方が松林で、左が田畝になっているのであるが、彼はその途を一人急いで、娘のことなど考えながらやって来ると、突然行手の林の中にある岩の上に白いものが見える。「おや何かしらん」と怪みつつ漸々にその傍へ近付いて見ると、岩の上に若い女が俯向いている、これはと思って横顔を差覗くと、再度喫驚した。それは今自分がそのために薬を買いに行った、病床にある娘であったので、不思議に思ったが、若者は我を忘れて直ぐ声をかけた。

「みよーさん、（娘の名）貴嬢は、まあ如何して、こんな所へ来なすっただ」と訊ぬると、娘はその蒼白い顔を擡げて、苦しそうな息の下から、

「お前を、待ちかねて、此処まで来たのだよ」と答えたので、

「それはそれは、遅くなって御免なさい、何しろこんな所へ居なすっちゃ、身体に悪るいから私が背負って行って家へ帰りましょう」と云ながら、手に持っていた、薬瓶をその岩の上に置いて、いざ背負おうと、後向きになって、手を出して待っているが、娘は中々被負らないので、彼は待遠くなったから、

「さあ、早く行きましょう」と不図後方を振向くと、また喫驚。岩の上には、何時しか、娘の姿が消えていて、ただ薬瓶のみがあるばかり。これはとばかりに、若者は真蒼になって主家へ駈込んで来たが、この時既に娘は、哀れにも息を引取っていたとの事である。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇　百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房
　2007（平成19）年7月10日第1刷発行
底本の親本：「怪談会」柏舎書楼
　1909（明治42）年発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2008年9月25日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

テレパシー

水野葉舟

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/